

Abstract

序論 米外交史におけるトランプ外交の「例外性」
——リベラル国際秩序の動揺の果てに

草野 大希（埼玉大学教授）

本特集の目的は、ワシントンの「よそ者」として登場し、前例のない言動で米国内外に大きな衝撃を与えたトランプ大統領による外交を、米外交史及び米国と各国・地域との間のより長期的な関係の中に位置づけ、評価することである。序論としての本稿では、トランプ外交の全般的な傾向や特徴を概観する。第1に、トランプという異色の大統領が誕生した要因を、2016年の米大統領選挙の結果を分析し、明確にする。第2に、彼の外交ドクトリンである「米国第一」が、いかに「リベラル国際秩序」（多角主義、民主主義、自由貿易を基盤とする秩序）に挑戦するものであったのかを確認する。第3に、米外交史における2つの伝統である「国際主義」と「孤立主義」の観点から、トランプ外交の過去との類似性を指摘する。最後に、対外政策の分析枠組みである「3つの分析レベル」を参照し、トランプ外交が、第2、第3レベルから「歴史」の影響を受けた可能性について論じる。